

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸 あじさい		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	平成28年5月20日	評価結果市町村受理日	平成28年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401		
訪問調査日	平成28年6月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム里の家平岸は3ユニット定員27人で、平成14年開設の歴史ある事業所である。事業所では利用者のかけがえのない毎日を支えるため、計画的に自己評価に取り組み、支援の振り返りを行っている。また、職員の資質向上のための研修に取り組んでいる。法人では4事業所12ユニットを展開しており、すべての事業所のヒヤリハットや困難事例を共有し、改善に取り組むなど法人のスケールメリットを活かし、より良いケアの実践として利用者還元している。食事の支援では、高齢者に配慮した美味しい食事を法人内ユニットで競い、技術向上に努めている。また、味はもちろん、食べ物が体と健康を作る源として、どのような食材を提供するかなどの検討を行っている。利用者の意欲を高めるため、役割作りや利用者同士、職員との支え合いなど、人とのつながりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を把握しており、実践できるよう、現在の入居者の方の状態に照らし合わせ、毎月の目標を立てて行っている。ユニット内では更に細かい点まで追求し実践につなげている。	法人内4事業所共通の理念があり、毎日職員引継ぎ時に唱和している。また新人研修や年間の内部研修でも取り上げており、理念をもとに毎年ユニット目標や職員個人の目標を設定し、目標とするケアの実践を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の中での散歩の際には、どなたにでも挨拶を交わしている。近所の方から、庭の木のさくらんぼ狩りの声を掛けていただくこともあり、地域の一員として受け入れられていると感じることができる。	開設から14年が経過しており、地域との関係が育まれている。利用者や職員が地域行事に参加しているほか、ボランティアの来訪や地域の祭りや催しに積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの場を通じて、地域の方や家族の方に、認知症の人の日常生活場面を含めながら、わかりやすく説明したり、具体的な支援方法を伝えるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が行われた際には職員も参加し、実際に取り組んでいることを報告し、地域の方からアドバイスを受けることもあり、それが職員に周知され、サービスの向上につながるよう努力している。	運営推進会議は定期的開催している。家族や町内会、行政や地域の介護保険事業者などの参加がある。事業所の現状や課題を話し合い、多様な参加者からのアドバイスを活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市町村担当者とは頃から密に連絡を取っており、良好な協力関係ができています。事業所の実情や日常の取り組み内容も伝えてあり連携が図れている。	事業所便りなどで事業所の取組みを伝え、必要な届出を適切に行っている。地域の高齢者を支えていきたいという思いがあり、キャラバンメイトなどの認知症高齢者を地域で見守るための啓蒙活動で行政との協力を検討している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内でも頻りに研修内容として取り上げられることが多く、職員に周知している。玄関の施錠は防犯上、交通量も多く施錠されている時はある。日中は可能な限り解放されている。言葉かけの内容でも拘束につながらないよう気を付けている。	内部研修を毎年開催し、外部研修にも職員が参加している。職員全員が身体拘束や不適切なケアについて考える機会を持ち、よりよい支援をチームで話し合っている。1階玄関の施錠は見守りを行い、開放する時間を増やしている。利用者に閉塞感がないよう、外出の希望に応えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修や勉強会においても、何度も取り上げられており、学ぶ機会が多い。ユニット内でも言葉かけの仕方から細かく話し合いが行われ虐待につながらないよう、最大の注意が払われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年々、制度を利用する方が増えていくと思われる。制度を実際に利用する方がいた場合には改めて、その制度について職員が学ぶ機会を設け、入居者の方がうまく活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や質問があった場合、十分な説明を行っている。後日、同じ質問があった場合であっても理解が得られるよう説明を行い、納得、同意が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方からは主に職員が日常の中で要望を聞き取っている。家族からは面会時に意見や要望を伺っている。可能な限り、運営に反映されている。	毎月の事業所たよりや運営推進会議の議事録を渡しており、面会の際にはユニットリーダーや管理者も家族から意向を引き出すようにしている。家族からの希望などがあった場合は家族対応記録に記載し、職員が内容を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、都度、職員からの意見や提案に耳を傾けている。職員は管理者に意見を伝えやすい環境が整っている。意見を受けた代表者や管理者は運営に反映されるよう努めている。	働きやすい職場作りに取り組んでおり、介護に必要な物品の提案には素早く対応できるようにしている。また職員の働き方や将来の希望などを聴取し、資格取得のアドバイスや法人内の異動などの参考にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすく、やりがいがあるよう、職場環境や条件の整備を細かく行っている。年に2回の懇親会や管理者からの面談も随時あり、可能な限り個々の要望に沿える、又は近いものになるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度内部研修を行っており、その他にもその職員の力量に合った、事業所外の研修を可能な限り受けることが出来るよう配慮されている。日常では管理者やリーダーがトレーナーとして随時研修を踏まえた指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のホーム間ではあるが、交流する機会が設けられている。祭りや食事会、見学会などもあり、相互で協力関係が出来ている。平岸地区でも他事業所の運営推進会議に管理者同士が相互に出席するなど交流が増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に困っていること、不安なことを聞き取れるだけ聞き取り、少しでも心配事が減るよう努めている。都度、困り事は無いか確認し、本人に寄り添い安心できる環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に、事前に家族に心配事や要望を聞き取っている。会話から“誰かに聞いてもらう”だけでも、安心感が得られると思われる。より関係性が深まるよう接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番に優先しなければならないことを職員間で見極めて、支援している。同時に本人に必要なと思われる支援内容も全員で把握し、本人が困らないよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの方の出来ることを活かし、職員と入居者の方が共に生活する場としてお互いが思いやり、助け合いながら暮らしていく関係性ができている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現在の状況を家族に把握してもらうため、細かな点まで伝え、こちらからお願いし協力していただく場合もある。家族の絆を大切に出来るよう、家族との時間をゆっくり過ごせる環境作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2階に夫がいたり、3階に同じ地域の方が住んでいるなど、日常的に大切な方と会える機会がある。家族や管理者も協力しながら、本人の大切な場所や人との関係が途切れないよう支援している。	馴染みの飲食店での食事や住んでいた地域へドライブに出かけたりしている。個別の外出支援を行っており、家族とともに墓参りなど遠方まで出かけることもある。昔の友人との交流や、信仰を継続できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな方に対して、職員が間に入り少しの時間でも入居者の方向士が過ごせる時間を作っている。何かがあればお互いに助け合うような場面も多く、職員はサポート役として見守りし、必要があるときのみ間に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係性が継続している家族の方もおり、葬儀に出席することもある。入居者本人の思い出話をすることも多い。必要に応じて個々の希望に沿えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普通の会話の中から本人の希望を聞き取れるよう努めている。自分の気持ちを上手く伝えることの出来ない人に対しては、家族と相談したり、希望するであろう事を取り入れている。	意向を表出できない人や我慢している人もいること、認知症の進行なども考慮し、気持ちに寄り添い、触れたりさすったりなど利用者に合わせた方法で関係作りを行っている。家族からの情報も合わせ、利用者の理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、本人にこれまで関係があった方などから、今までの本人の生活歴を聞き取り、何気ない会話からも把握に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や連絡ノートを活用して職員間で情報を共有している。日常生活は日々変化しているが、都度様子観察行いながら話し合い対応できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議を行い話し合っている。毎日のカンファレンスで職員間で情報交換を行っている。面会時やケアプラン変更時には本人や家族に希望の聞き取りを行い、ケアプランに反映させ、作成している。	ケア計画は3か月ごとに更新している。更新前月からユニットの職員全員で評価を実施し、利用者にその時必要なケアとなっているかを検討している。「本日のケア目標」を利用者ごとに毎日設定し、利用者のかけがえのない日々を支えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録を毎日記入して、ケアや介護計画の見直しに役立てている。突発的な対応の変化があっても都度話し合い、申し送りノート等で情報を共有し実践できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療・看護・歯科・リハビリ等をお願いしている。危険が伴わないものであれば柔軟に対応出来るよう努めている。可能な限り、個別対応も行うことが出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加することがあり、相互に顔馴染みの関係となっている。特に子供たちと触れ合う行事への参加の際には生き生きとした表情が見られる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿えるよう、家族の方にも協力してもらうこともある。納得して適切な医療が受けられるよう話し合いの場を設けることもある。かかりつけ医とも良好な関係性ができている。	入居時に事業所の訪問診療に切り替え、専門医の受診は家族や職員が通院支援を行っている。往診医が専門医への紹介状を持たせてくれ、医師間の医療情報は適切に伝達されている。毎週訪問看護があり、健康管理も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受けており、特変や気になったことがあれば報告し、相談している。水分制限、塩分制限がある方のメニューを実際に見てもらいアドバイスを受け、日々実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とも連携し、医師、看護師、相談員とも密に情報交換を行っている。日頃から医療機関とも関係性を深めるよう努めている。入院した際にも管理者を通じ、ホーム側から早期退院に向けた細かな情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の日頃の様子や年齢などを考慮し、なるべく早い段階での話し合いの場を設けるようにしている。本人や家族が安心して生活できるよう、主治医、訪問看護ステーション等と連携し看取りを行うこともある。	看取りを行っており、看取りの初期の段階から医師を交えたチームで支援を行っている。家族にとっては初めてとなる場合が多いため、具体的なアドバイスを心がけており、運営推進会議でも取り組みを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応についてはマニュアルが掲げられている。実践力が向上するよう救命講習なども、事業所内で随時訓練が行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や地域の方も参加しての避難訓練があり、その他にも事業所内で定期的に避難訓練が行われている。身につくよう繰り返しの自主訓練が続けられている。	避難訓練を実施し、地震や火災等の災害に備えている。訓練には地域からの参加があるが、消防の立ち合を依頼しても難しい現状となっている。半数の職員が救命講習を終了しており、今後全員が受講することになっている。	避難訓練時に消防の立ち合いを要請しているが、実現していない。非常時の備えは専門家のアドバイスも参考になることから、働きかけの継続が期待される。また地域の参加者にも具体的な役割を伝えていくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット内では個々に照らし合わせ、対応に間違いがないかこまめに振り返り、親しい中にも礼儀をわきまえるよう気を付けている。	ユニットごとに個別の支援に合わせて検討している。職員間の経験などで対応や考え方に差がないよう職員同士コミュニケーションを取りながら支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が遠慮し自身の思いや希望を表出できない方もおり、その方に対しては時間をゆっくりと使い、話をする機会を設け希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の気持ちを大切にし、希望が叶うよう職員間で情報交換を行い、管理者にも協力を仰ぎ、柔軟な対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で判断したり、選ぶことが出来るよう個人に合わせ、外出時には化粧を促したり、季節に合った服を選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な事を生かし、食事の準備・片付けを入居者と一緒に行っている。食材を見てメニューを決めて調理してもらったり、行事以外にも全員で昼食を作り、食べることもある。	利用者がその時食べたいものを作るよう、あらかじめの献立は決めていない。利用者が参加して食事を作ったり、行事食や外食も行い工夫を凝らしている。職員と一緒に食卓を囲み会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は情報を共有し統一した対応を行っている。状態の変化時にも都度対応し、別メニューで提供したり、水分制限がある方には器の大きさを変えストレスがたまらない工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けだけでは自身で行えない方に対しては、ジェスチャーを交えて促し自身の力で行えるよう付き添っている。仕上げは職員がさりげなく行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えが無い方には排泄表を活用しながら誘導し、感染症の予防にも取り組んでいる。介助を必要としている方にも自身で出来る動作は行ってもらうようにし、個人に合わせた支援を行っている。	安易なおむつの導入は行わず、トイレでの排泄が継続できるよう取り組んでいる。おむつメーカーの研修を受け、適切な使用ができるよう学び、時間や体調に合わせて布パンツやパッドなどを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認し、個々の症状や傾向に合わせて、下剤の調整や牛乳・ヨーグルトを提供し排便を促している。ラジオ体操や散歩などの運動も積極的に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に沿えるよう支援している。毎日入浴に応じられる環境にあり、職員の配置人数を踏まえ安全面や希望に配慮している。入浴剤を選んでもらったり、会話する機会を多く持ち楽しむこととなるような取り組みもしている。	重要事項説明書で週3回の入浴支援を行うことが記載されており、利用者の希望により毎日でも入浴ができるようにしている。午前中から午後3時くらいまでの時間帯で、長湯や仲の良い利用者同士の入浴などにも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムに配慮し入眠時間は決めずに、その方の様子を見て促している。居室での午睡、ホールソファでの休息の声掛けも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用しながら理解するように努めている。服薬内容に変更があった時は、症状の変化を経過記録やバイタルチェック表に記載し職員全員が把握できるよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に役割を持ってもらい、力を活かす場を提供している。個々に合わせた楽しみ事を見つけ、管理者にも協力を仰ぎ、外出支援も積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を行事に反映させたり、家族や管理者の協力を得て、遠くの場所まで出かけることもある。気分転換を兼ね、日常では近くの公園へ散歩やピクニックにお弁当を持ち行くこともある。更衣時に季節や気候にあった物を着て出かけている。	天気の良い日に散歩に出かけたり、買い物のついでに外食を楽しむなど気分転換を行っている。ユニットごとに月2回の外出行事や個別の外出支援を行っている。法人のリフト付きの車両なども使用し、冬期間も閉じこもりがちにならないようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な分を自ら支払いするように促したり、金額を伝えてから、購入したいかを本人に決めてもらうこともある。職員が支払った際も何を幾らで買ったかを伝え、購入を認識してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会は少ないが書けるように付き添ったり、得意の絵を添えて貰ったりしている。職員の用件で家族にかける時にも本人に代わり話をして貰っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、テーブルに旬の花を飾ったり、ホール内の壁には思い出の品や季節を感じられる物を貼って季節を感じたり、話題が広がるよう工夫している。入居者の方もそれぞれが積極的に取り組み、職員と入居者で空間作りを行っており楽しみや役割にもつながっている。	四季を感じられるよう、プランターで花を育てたり共有スペースの飾りを変えている。温湿度計があり、感染症予防などに合わせた調整を基本としながら利用者の感覚に合わせて温度調整を行っている。テーブルの配置や座る位置なども利用者の様子に合わせて調整し、快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごすために廊下やテレビ前、ホールにソファが置かれており、一人でのんびりと過ごしたり、昼寝をしている。その時々で気の合った人と話をしたりと自由に過ごすことができている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンスや仏壇などを置き、タンスには何が入っているか、本人にわかりやすいように、明記し更に使いやすいよう工夫していることもある。本人と相談しながら、模様替えもしている。	利用者がそれぞれ使い慣れた家具などを持ち込んで、安全で使いやすいように配置している。思い出の品や事業所の生活の一コマを記録した笑顔の写真などを飾り、それぞれの部屋の装飾を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場には紙や、のれんを使用して場所が分かりやすいように工夫しながら、能力が活かせるよう付き添ったり、声掛けをしている。		